

2024年04月30日（火）【外為L a b】松田哲  
タイトル：【昨日（2024年4月29日）のドル／円】

昨日（2024年4月29日）は、祝日「昭和の日」で東京外国為替市場は休場。

そういった状況下で、昨日の日本時間の午前中に、ドル／円は160円台前半に上昇した。

ところが、日本時間の午後に、ドル／円は155円台に大きく急落した。

155円台から、いったん157円台に急上昇したが、そこ（157円台）から、再度大きく急落し、安値を更新して155円を割り込み、154円台を付けた。

その後は、155円台から156円台での持ち合いに推移している。

昨日（2024年4月29日）の夕方、財務省の神田財務官は、「為替介入の有無については、ノーコメント」と述べている。

+++++

昨日（2024年4月29日）のドル／円の160円台から155円台への急落は、個人的には、財務省が「ドル売り円買い介入」を実施したのだろう、と考えている。

実際に「介入」を実施したのか、否か、については、後日、財務省により発表される「外国為替平衡操作の実施状況」を見ればわかることだ。

だから、今の時点で、断定する必要は無い。

しかしながら、外国為替取引を行う立場では、今の時点で、どのように対処するのか、を判断しなければならない。

重要なことは、「介入」であれ、そうでないのであれば、昨日（2024年4月29日）のドル／円の値動きで、160円台から154円台に大きく下落したという事実だ、と考えます。

+++++

別な言い方をすれば、いわゆる「ゴールデンウィーク」の最中に、「介入」と思われる大きな変動があった、という事実。

日本の「ゴールデンウィーク」の期間は、世界中で、市場参加者が減少します。

そういったリクイディティ（相場の流動性）の少なくなった時にも、「介入」を実施する可能性がある、と考えるべきなのです。

+++++

「ゴールデンウィーク」の間中は、「あえて相場に参加しない」という選択も、十分に理に適う行動と考えます。

+++++

さらに、今日明日（2024年4月30日、5月1日）には、FOMCを控えています。

大方の事前予想では、FRBは、政策金利を据え置く、とされています。

現状の市場参加者は、政策金利据え置きを「ドル買い」と判断する、と考えます。

そして、今日明日のFOMCの結果が政策金利据え置きならば、今週末（2024年5月3日金曜日）に発表される米国雇用統計は、その重要性を、さらに増すことになる、と考えます。

+++++

+++++

（2024年04月30日東京時間12：40記述）